

新宮山彦ぐるーぷ第1829回

持経宿改築・流し場天井張りと薪小屋柱塗装

◇実施日；平成27年7月29日(水) 曇りのち晴
◇参加者； 梶野照雄

午前0時ごろ、激しい雨音で目が覚める。パソコンを立ち上げてレーザーを確認すると、降っているのは大阪のごく一部で、紀伊半島南部に大きな雨雲は無い。

午前6時過ぎに家を出る。いつも同じ道では飽きるもので、168号で十津川経由、白谷林道で行き、帰りは池郷林道で、工事状況の再確認をすることにした。

道の駅十津川郷で休憩して、持経宿には午前10時少し前に着いた。工具をおろして、流し台上の天井を張る作業から始める。垂木の間隔は同じだと思っていたら、そうではなかった。切った板をあててみると、あれあれ、隙間ができる。端材の寄せ集めなので、板に余裕がない。隙間を見ないようにして取り付けた。



貼り終えた天井



塗装開始



ヤツケを着て天井も

切ったり、削ったりの現物合わせで、手間がかかり、天井ができたのは12時前だった。

昼食後、塗装を始める。気温27℃、少し動くとも汗が噴き出してくるので、Tシャツのまま作業していたが、髪の毛に塗料が付いてしまい、厚さを我慢してヤツケを着込む。



塗り終えた天井



薪小屋も塗装開始



塗り終えた薪小屋

14時30分、流し台部分の塗装終了。休憩後、薪小屋柱の塗装にかかる。玄関外壁に塗った木材保護塗料が残っているので、真新しい柱などを全部塗ることができた。

16時30分ごろ、薪小屋で保護塗料を塗っていると、表で声がする。中断して上がってみると、青年縦走者が一名。本日持経で宿泊するという。「水場は近いですか？」と聞かれたので、5分くらいと説明して、作業に戻る。

17時前に塗装が終わり後かたづけをしていると、水場に行ってきた青年が戻ってきた。

ホースから水が勢いよく出ていたので裸になって水浴びをし、

さっぱりして生き返ったようだ、と話してくれた。
夏場の暑い日にはこれもアリかと思つたし、ホースからの流水で水浴びのできる貴重な水場と再認識した。

17時過ぎに持経宿を離れて池郷林道へ車を進めた。三叉路にあった工事中の看板は見当たらない。工事現場まではスムーズに走れた。現場にあったプレハブ小屋や工事概要を書いた看板などは全て撤去されていて、工事は終了している。重機で路面を均したらしく、先日あった出水による深い溝も無くなっていた。池原まで40分弱だった。

行動タイム

7月29日(水)

堺 6:05→9:20 白谷林道ゲート→9:55 持経宿→11:50 昼食 12:20
→14:30 休憩→持経宿 17:08→17:43 池原 18:15→20:50 堺
(記 梶野)



林道工事完了



プレハブ小屋があった場所



工事中看板は無い

追記…持経宿改築は、事務局が主導で進めるものと思われがちで在るが、自ら平日に1人で改築現場を訪れ、自分の出来る作業を積極的に見つけて進めて頂く姿勢に頭が垂れます。
これが新宮山彦ぐるーぷ皆で南奥駆道を維持・管理して行く上で本当に大切な事であり感謝しています。

(記 川島)